

ようやく秋が実感されていく10月、この佳き日に、令和6年度愛媛県立松山東高等学校通信制課程の入学式を挙行できますことは、私たちにとって、大きな喜びでございます。

ただ今、入学を許可いたしました新入生の皆さん、御入学、おめでとうございます。本校では、先だって前期卒業式が行われ、20名の生徒の皆さんを送り出しました。少し寂しさを感じていたところ、本日、70名の皆さんをお迎えすることができ、心からうれしく思います。

本校では、毎年、生徒生活体験発表が行われ、今年は、8名の生徒が、自分の経験や思いを発表してくれました。人間関係の苦労や健康面、学習に関する不安など、これまでのいろいろな困難を、友人や先生方、御家族に支えられて乗り越えてきた自分の今の思いを、しっかりと伝えてくれた、その発表を聞いた生徒の皆さんからは、

「過去を振り返ってそれを糧とし、成長している皆さんをすごくカッコいいと思った。」

「一度挫折したり、心に深い傷を負ったりした人間が、自分の望む自分になれる可能性がある通信制は、とてもよい環境だと思う。」といった感想が寄せられました。

今、皆さんの心の中では、通信制での生活がどのようなものになるのか、期待と不安が入り混じっていることと思います。ですが、本校の生徒たちは、通教生活の中で、仲間たちや先生方と心を通わせ合い、支え合いながら、自分の可能性に向かって歩みを進めています。

本校の合言葉に、「ひとりじゃないんだ、がんばろう」という言葉があります。この言葉は、今から約60年前、皆さんの先輩である大原和寿さんが作詞した通教の歌の中にある言葉です。昭和37年当時、33歳だった大原さんは、自分の子どもさんが生まれたことをきっかけに、「新しい命のために胸を張れることをやってやろう」と思い立ち、本校への入学を決意されました。

「ひとりじゃないんだ頑張ろう」は、通教生になって、レポートやスクーリングと、仕事との両立で頑張っていた大原さんの、自分への励まし、級友への励まし、心からの言葉です。そして、もう50年以上にわたって、本校の生徒たちを励ましてきました。皆さんは決して一人ではありません。通教の仲間がいます。先生方がいます。温かく見守ってくださる御家族がいます。

勉強や人間関係づくりは、全て思いどおりになるようなことはありません。でも、そのようなとき、悩みながらも頑張っている自分を認めてあげてほしいし、周りにも自分と同じような思いをしているのだと気付いて、励まし合ってほしい、と願っています。

保護者の皆様、お子様の御入学、おめでとうございます。心からお喜び申し上げます。私たち教職員一同は、本日からお子様をお預かりし、自分の可能性に向かって歩みを進めていけるよう、精一杯、努めてまいります。本校の教育活動に対しまして御理解と御支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

新入生の皆さん、皆さん一人一人が、新しい友人、よい仲間や先生方との出会いに恵まれ、豊かに成長されることを期待して、式辞といたします。

令和6年10月6日

愛媛県立松山東高等学校長 沖田浩史